

2025年10月1日

三菱UFJ信託銀行株式会社

北海道大学とトランジション技術に関する共同研究を開始

三菱UFJ信託銀行株式会社（取締役社長：窪田^{くぼた} 博^{ひろし}、以下 三菱UFJ信託銀行）は、持続可能な社会の実現に向け、北海道大学グリーントランスフォーメーション先導研究センター（以下、GX先導研究センター）と2025年10月1日からトランジション技術に関する共同研究を開始致しました。

本共同研究は脱炭素社会の実現へ向けて開発や活用が必要なトランジション技術を調査・研究することで、トランジションへの支援を通じた投資先企業の持続的成長をサポートすることを目指しています。

日本政府は、2020年に「2050年カーボンニュートラル宣言」を行い、2023年には「GX推進法」（正式名称「脱炭素成長型経済構造への円滑な移行の推進に関する法律」）を成立させました。この法律は、トランジション（移行）に着目し、トランジション・ファイナンスに関する市場整備が進められ、温室効果ガス多排出産業を中心に「トランジション技術」の導入を後押ししています。

機関投資家はトランジション技術の開発を含め、脱炭素社会の実現へ向けた企業の戦略や取り組みを理解し、ファイナンス面から支援する重要性がますます高まっています。

また、北海道・札幌市はGX金融・資産運用特区に指定され、GX産業の集積とそれを支える金融機能の強化が期待されています。北海道大学は2025年4月にGX先導研究センターを設立し、再生可能エネルギー、水素、CCUS、バイオマス、次世代蓄電池等幅広い分野の研究者84名を結集し、卓越研究と社会実装を推進しています。今回の取り組みは、同センターにおける初の本格的な産学連携研究となります。この共同研究は、GX金融・資産運用特区に指定された北海道・札幌から、産学連携によってGX金融とGX技術を橋渡しする先駆的な取り組みです。

当社はこれまでサステナブル投資の推進を通じて、環境・社会課題の解決に取り組んでまいりました。本研究を通じて、科学的知見と金融の視点を融合させ、受託者責任の下、持続可能な成長と企業価値の向上、さらにはサステナブルな未来の実現に向けて、お客様および社会への貢献を一層強化してまいります。

以上